

副詞の(間)主観性  
大阪学院大学[院] 平岩加寿子

1. はじめに

日本語の副詞には、話者の主観を含むものだけでなく、聞き手に対しての配慮を表す間主観性を持つものがある。こうした副詞を理解する際に、従来の副詞を表す認知構造図に加えて、認知のモード(特にIモード)を導入することが有効であり、さらに、Langackerの提唱するグラウンド(G)の概念を日本語に合わせて修正することを提案する。

2. 先行研究

Langacker(2009)では、形容詞(1)と副詞の違いをトラジェクタに見ており、この差異を、図1, 2のように表している。しかしながら図2で表される概念構造は(2a)のような動詞を修飾する副詞(様態の副詞)の場合に限定される。日本語の副詞の種類には他にも(2b)の強意語(程度の副詞)、(2c)の文修飾の副詞(評価の副詞)などがある(益岡・田窪(2013: 41-48))。例文(2b)の概念構造は図3に、(2c)は図4に、それぞれ対応している。また、古賀(2009)では、文の意味を三層構造に分けることによって、特に文修飾の副詞について詳細に分析している。

(1) The sky is clear. (天気がいい)

- (2) a. He can't see it clearly from the window. (彼(に)は窓からではそれがはっきり見えない)  
 b. He can see it very clearly. (彼にはとてもはっきり見えている)  
 c. Clearly, he can't see it. (明らかに彼はわかっていない)

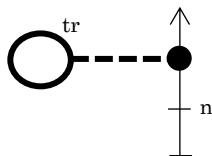


図1: 形容詞  
(Langacker (2009: 8))

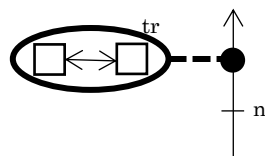


図2: 様態の副詞  
(Langacker (2009: 22))

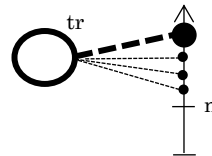


図3: 程度の副詞

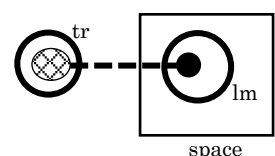


図4: ナ形容詞  
主観副詞

3. 主観副詞の視座とグラウンディング

3.1. 主観副詞

ところが、先行研究では次のような二人称や三人称が認知主体になることはないタイプの副詞(「主観副詞」と名付ける)について、説明が不十分である。

- (3) a. やっぱり! / もちろんだ。 / まさか、あの子が合格するとは。  
 b. 別に気にしていませんよ。  
 c. せっかく用意した料理が冷めてしまった。  
 d. 彼女はあいにくおりません。

主観副詞は、事態に対する概念化者(=話者)の心的態度を表す。命題が表出されず、感嘆詞のように発言されたり、副詞一語文になったりすることもある(3a)。(3b)では、話者の心的態度を表すと共に、グラウンド(G)を共有する聞き手への配慮が少し見える。聞き手の存在感がさらに増すのが(3c)である。「せっかく」は話者が(潜在的)聞き手のために手間をかけて「用意した」ことに対する、話者の心的態度を表すと共に、聞き手の聞き取り方に配慮(や、ある種の恩着せがましさ)を込めている。早瀬(2016: 221-225)は「間主観性 intersubjectivity」を、「話者が聴者の意識に意図的に注意を向けて、共通認識を形成する方向へ努力すること」としているが、この種の副詞はこの意味において、まさに間主観性を表す副詞であると言える。専ら対人関係を結びつける働きをする副詞である。

ここで、主観副詞と形容詞の違いをさらに明確にすると、典型的形容詞と様態や程度の副詞(2a, b)のランドマークが尺度であるのに対して、(3a)のような副詞のそれはスペースである。この点において、これらの副詞はナ形容詞(図 4)により近い。例えばオノマトペの多くは様態の副詞として機能するが、「ぴったりはまる」「ぴったりな箱」「まさにぴったりだ」と使え、言語的ふるまいの点でもナ形容詞との共通点が多い。

しかしながら(3d)に見られる認知構造は捉えきれない。副詞「あいにく」の機能は、命題「彼女の不在」に対する描写ではなく、談話の場(G)における話者の聞き手に対する配慮(や、ある種のお膳立て)である。従って、この副詞の概念化の過程を図示するには、Gを修正する必要がある。

### 3.2. 日本語に合わせたグラウンドの修正

その際に有効なのが認知のモードの導入である。図 2, 3, 4 では、概念内容(conceptual content)は表せても、(3d)の「あいにく」が表す聞き手への配慮という捉え方(construal)が表せない。Iモード認知図(図 7)では、観る側(S: Subject of Conceptualization)と観られる側(O: Object of Conceptualization)の非対峙を示すことができ、描写対象に対する概念化者の没入を表すことができる。また、Gの修正によって、聞き手に対する心的態度も表示できる可能性がある。

Langacker(2009: 148-151)では、節のグラウンディングの基本形を図 5 のように図示する。これは概念内容を OS 外の G から眺める構図だが、(3d)は「彼女の不在」を外から眺めて表現しているわけではなく、その事態に対して、話者自身の残念に思う気持ち(=主観性)と、聞き手に対する配慮(=間主観性)の、双方を含んだ表現であるため、少なくとも G における概念化者の役割を分けねばならない。

それを表すのが図 6 である。「あいにく」と言うことで、SはOを客観化しているわけではないので、SとOを囲う丸と四角はそれぞれ独立していないことを示すために点線で表している。SとOに「観る・観られ関係」が対立的に存在しないため、グラウンディング関係を表すrも不要である。また、Gの概念化者の立場も、話者(Sp=S)と聞き手(H)を分けて考える必要がある。

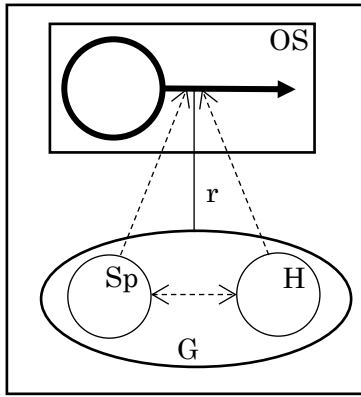


図 5: 節のグラウンディング  
(Langacker 2009: 151)

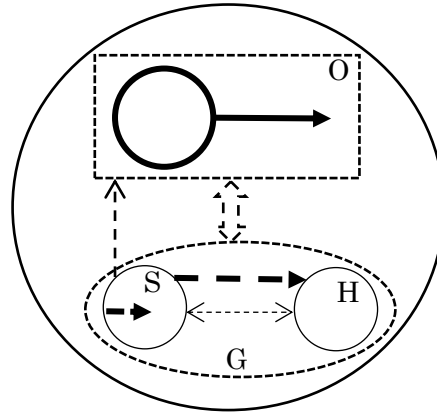


図 6: 「彼女はあいにくありません」

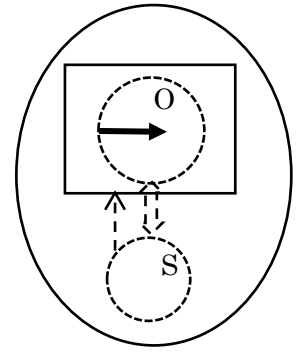


図 7: Iモード認知  
(中村 2016: 45)

#### 4. まとめ

本稿では日本語の主観副詞について、SとOが対峙的には捉えきれないこと、概念化者の主観を表すのみならずGを共有する聞き手との関係構築(配慮、接遇、忖度など)において使われていることを明らかにした。図6の話し手から聞き手に伸びる太破線矢印の設定により、「ダサいを乗り越えて逆にかっこいい」や「どうぞお入りください」(古賀(2009: 1114)では、発話態度に関わる *please*)なども、同様の認知構造で捉えられる。

#### 参考文献

- 早瀬尚子. 2016. 「懸垂分詞構文から見た(inter)subjectivity と(inter)subjectification」. 中村芳久・上原聡(編)『ラネカーの(間)主観性とその展開』. 207-230. 東京. 開拓社.
- 古賀恵介. 2009. 「認知文法における副詞の意味構造」. 『福岡大学人文論叢, 41(3)』. 1095-1123.
- Langacker, Ronald. 2009. *Investigations in cognitive grammar*. Berlin. Mouton de Gruyter.
- 益岡隆・田窪行則. 2013. 『基礎日本語文法(改訂版)』. 東京. くろしお出版.
- 中村芳久. 2016. 「Langacker の視点構図と(間)主観性 —認知文法の記述力とその拡張—」. 中村芳久・上原聡(編)『ラネカーの(間)主観性とその展開』. 1-51. 東京. 開拓社.